



大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

M I Z U K I

医療連携室ニュース「みずき」

{volume}

31

2016 MAY

CONTENTS

病院長・広域医療連携センター長就任のご挨拶

広域医療連携センターが新しくなりました

診療科名変更のお知らせと診療内容のご紹介

循環器内科ホットラインの取り組み

新任科長のご紹介

医療連携室からのお知らせ

編集後記

病院長・広域医療連携センター長就任のご挨拶



病院長・
広域医療連携センター
センター長
内山 和久

平成28年4月1日付で大阪医科大学附属病院長を拝命致しましたので、一言ご挨拶を申し上げます。本院は、附属病院開院から86年という長い歴史と9,000名を超える同窓生の多大なご尽力に支えられて今日に至りました。阪急高槻市駅に隣接し、さらにJR高槻駅徒歩5分という極めて交通至便の地にあり、北摂地域における地域医療の要を担っています。現在では、882床の高度急性期病院として29の診療科と14の中央診療部門から構成されています。

2012年に設置された「広域医療連携センター」(医療連携室・入退院支援室・患者総合相談室・ボランティア支援室)の活動は軌道に乗り、患者さま支援や医療連携の強化に繋がっています。周辺の医療機関とも緊密な病病連携・病診連携を構築し、5大がん(乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん・肺がん)と前立腺がんの地域連携パス、さらには脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、大腿骨骨折といった地域連携パスを医師会と共に作成して積極的に活用するなど、三島医療圏におけるよりスムーズな連携の確立を目指しています。

われわれ職員一同は、「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します」という本院の理念を実現すべく、一丸となって日々努力し、患者さまとご家族さまに安心と安らぎを与えられる魅力ある病院を目指しています。何かお気づきの点やご要望がございましたら、「広域医療連携センター」を通じてご意見をいただければ幸いです。

Topic2 広域医療連携センターが新しくなりました

平成27年12月に組織改定があり、広域医療連携センターの部署は『医療連携室』『入退院支援室』『患者総合相談室』『ボランティア支援室』の4つの部署となりました。改定の目玉は『入退院支援室』の発足であり、入院から退院まで一元的に管理できる体制が整いました。そのためにセンターに2名の看護師が増員されました。

地域から患者さまの紹介をお受けしたり、逆紹介を推進する『医療連携室』、入院時の説明、病床管理、退院調整などを担当する『入退院支援室』、患者さまのご相談を窓口で受ける『患者総合相談室』、当院で活動するボランティアをコーディネートする『ボランティア支援室』となります。

患者さま、医療関係者の皆さま、地域の皆さま、が本院を利用する際、喜んでいただけるような潤滑油としての働きが果せますよう尽力して参ります。

医療連携室

西管理棟1F

地域医療機関と本院との円滑な医療連携を進めるための連絡・調整などを行っております

ご紹介患者さまの診療がスムーズに行われるよう、FAXによる予約受付やカルテの事前準備等を行っております。また、本院での診療により診断と治療方針が確定した患者さまについては、地域医療機関の先生方へ「逆紹介・かかりつけ医紹介」による医療連携を強化しております。

お問い合わせ先: TEL 072-684-6338 (直)



入退院支援室

外来棟1F

患者さまの入院から退院までの一体的な調整・支援をさせていただきます

専門性が発揮できる適正な入院調整と、患者さまおよびご家族さまの意思決定を重視した効果的な退院調整・支援を他職種スタッフ（入退院調整看護師・医療ソーシャルワーカー・事務員など）が連携・協働し対応しています。

お問い合わせ先: TEL 072-683-1221 (代)



患者総合相談室

外来棟1F

患者さまご家族さま等からの様々な相談に対応しています

療養生活に伴うさまざまな不安や心配に対して、医療ソーシャルワーカーや看護師が親身になって対応し、問題の解決に向けて援助させていただきます。

お問い合わせ先: TEL 072-683-1221 (代)



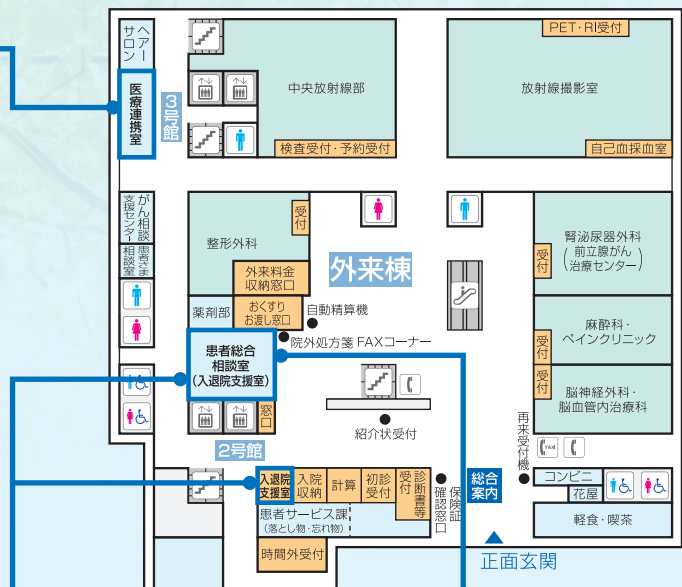
ボランティア支援室

1号館3F

地域に開かれた病院としてボランティアを受け入れています

患者さまの立場に立ったボランティア活動を通じて地域に開かれた病院の実現を目指して取り組んでいます。16歳以上の心身ともに健康な方であれば活動にご参加いただけます。

お問い合わせ先: TEL 072-684-7230 (直)



Topic3 診療科名変更のお知らせと診療内容のご紹介

『呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科』のご紹介

呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科 科長 後藤 功
科長 藤阪 保仁

平成28年3月1日から、診療科名称を変更いたしました。

(旧) 呼吸器内科 ⇒ (新) 『呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科』

呼呼吸器病は多領域にまたがる疾患を扱い、アレルギー・免疫、感染症、腫瘍など、その病因・病態も多様です。当科では従来より、喘息・COPD、間質性肺疾患、呼吸器感染症、ARDS、SAS、肺癌などの治療を中心に三島医療圏に貢献すべく努めて参りました。

このたび、呼吸器内科より呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科に科名を変更いたしましたのでお知らせいたします。がん治療の発展はめざましく、呼吸器腫瘍分野はまさにその中心と言えます。遺伝子変異に応じた分子標的治療薬による個別化医療の導入、加えてその耐性克服薬剤の開発が行われ当科も日本の中心的役割を担いました。さらには手術・放射線治療・化学療法とともにがん治療の第4の柱と期待される免疫療法が2015年末の非小細胞肺癌に対して臨床導入されました。従来のがん化学療法とは比べものにならないくらい高度に細分化された肺がん治療に対応し、またそれを担う人材を輩出し地域に貢献していくことが責務と考え科名変更にいたしました。

従来呼吸器病学を発展させていくのはもちろんのこと、全国の大学病院の中でもトップクラスの治験・早期開発臨床試験の実績を基に最新の医療を提供すべく努力して参ります。なにとぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



『麻酔科・ペインクリニック』のご紹介

麻酔科・ペインクリニック 科長 南 敏明

平成28年3月1日から、診療科名称を変更いたしました。

(旧) 麻酔科 ⇒ (新) 『麻酔科・ペインクリニック』

麻酔科は、1964年に全国で11番目に手術麻酔を目的として開設されました。1966年には痛みの治療を専門とする麻酔科外来が、全国で2番目に開設されました。麻酔科外来開設50年を機に麻酔科・ペインクリニック外来に名称を変更することで、ペインクリニックすなわち痛みの治療をさらに理解していただこうと考えています。

麻酔科・ペインクリニックでは、主に腰椎疾患、頸椎疾患、五十肩、帯状疱疹後神経痛（ヘルペス感染後の神経痛）やその他痛みに対する治療を行っています。治療は、内服や点滴治療に加え、硬膜外ブロック・星状神経節ブロックなどの神経ブロック（超音波装置・透視装置などを用いて）を安全で確実にっており、東洋医学治療（漢方薬など）も取り入れています。また、顔面痙攣、顔面神経麻痺などの痛みを伴わない治療も行っています。がん性疼痛は、院内緩和ケアチームと連携し、また近隣病院からのご紹介によりオピオイド（麻薬）に加えて各種神経ブロックを施行しています。

難治性の痛みや激しい痛みで悩んでおられましたら、是非ご相談ください。

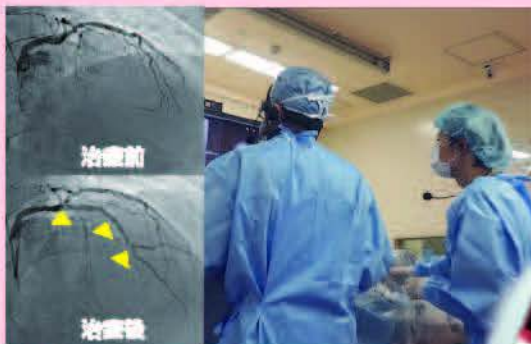




Topic4 循環器内科ホットラインの取り組み

循環器内科ホットラインは電話交換手を介さずに、地域の先生方と本院の循環器専門医とを繋ぐ直通電話回線です。循環器救急疾患の診療のご依頼から、循環器診療における治療方針の相談窓口まで、幅広くご利用いただくことを目的とし、「24時間365日、断らない循環器診療」を掲げて2014年度よりスタートしました。2015年度にご利用いただいた総数は170件になりました。ご紹介いただきました先生方には心より御礼申し上げます。循環器内科では、急性期診療から治療後のケアまで、隙間のない医療を提供できますよう、スタッフ一同取り組んでおります。お困りの症例がございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。

急性期診療

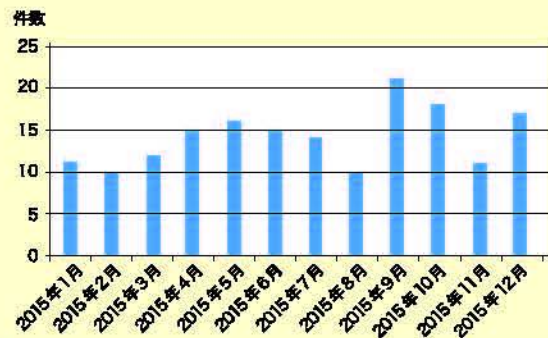


急性心筋梗塞に対するカテーテル治療

循環器内科の救急診療の中でも、特に虚血性心疾患、頻脈性・徐脈性不整脈、肺血栓塞栓症、急性心不全の患者さまには、緊急で処置が必要な場合が少なくありません。循環器内科では、夜間・休日であっても緊急時に対応できるように、オンコール体制をとっています。また、救急外来やICU、場合によっては心臓外科のスタッフと連携を取りながら最善の治療を提供させていただきます。循環器内科は24時間365日、救急対応が可能です。

2つの方法で紹介患者さまの診療をお受けしています

早期の対応が必要と考えられる場合には循環器内科**ホットライン**を、また、通常の外来を予約される場合には連携室を介した**予約システム**をご利用ください。外来では、当日の受診も含めて毎日、紹介患者さまをお受けしています。専門領域の予約診療をご希望される場合は、連携室にご相談ください。



2015年循環器内科ホットライン月別ご利用件数

治療後のケア

ご高齢な患者さまの緊急入院が増加しています。急性期治療を終えられた後は、早期にリハビリを開始して離床を促しています。また、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士の多職種が意見交換するカンファレンスを毎週開催し、治療内容の見直しや退院後の生活支援について細かく検討しています。検討した内容は、紹介元の先生方へ報告し、今後の診療にお役立ていただきたいと考えています。



多職種カンファレンス



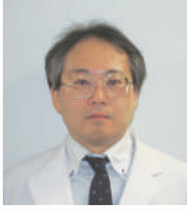
● 大阪医科大学附属病院 循環器内科ではお困りの症例の電話による相談窓口を開設させていただきます。

当院のスタッフ(循環器専門医)が、緊急症例の受け入れに際し、外来受診の予約など幅広く対応させていただきますのでご利用ください。

24時間対応させていただきます



新任科長のご紹介

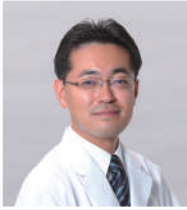


放射線診断科・
放射線治療科
科長 吉田 謙
(よしだけん)
平成28年2月1日着任

放射線診断科・放射線治療科

放射線治療科を担当いたします。がん診療の三本柱の一つである放射線治療は、コンピュータ画像診断の発達による高精度化が急速に進んでいます。当科では、低酸素増感剤の導入や子宮・前立腺癌での治療中でも歩ける組織内照射の開発など、成績向上だけでなく患者さまにやさしい治療を提供できますよう努力しております。

- 専門分野 放射線治療(特に小線源治療)
- 資格 日本医学放射線学会放射線治療専門医
- 略歴 1994年3月 神戸大学医学部 卒業
1994年4月 大阪大学医学部附属病院 放射線科研修医
1995年6月 大阪府立成人病センター 第五内科研修生
1996年4月 大阪大学大学院 医学系研究科(放射線腫瘍学) 入学
2000年4月 国立大阪病院(現 国立病院機構 大阪医療センター)放射線科(現 放射線治療科)医員
2011年5月 同院 臨床研究センターEBM研究開発部高度医療技術開発室 室長 兼任
2012年7月 大阪医科大学放射線医学教室 講師
- 趣味/特技 旅行



呼吸器内科・
呼吸器腫瘍内科
科長 藤阪 保仁
(ふじさか やすひと)
平成28年3月1日着任

呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科

分子標的治療薬導入による個別化医療の実践、耐性克服薬剤の開発、手術・放射線治療・化学療法と共のがん治療の第4の柱と期待される免疫療法の導入でより高度に細分化された肺がん治療に対応していくと同時に、当科の最大の強みである臨床開発試験に注力しつつ従来の呼吸器病学を後藤功科長と共に発展させて参ります。

- 専門分野 肺がん化学療法、抗がん剤早期開発臨床試験、臨床腫瘍学
- 資格 がん薬物療法専門医・呼吸器専門医・臨床薬理学会特別指導医・サイコオンコロジー学会CSTファンリテーター
- 略歴 1998年 大阪医科大学医学部医学科 卒業、第一内科研修医
2000年 国立がんセンター中央病院 レジデント・チーフレジデント
2005年 大阪医科大学附属病院 呼吸器内科 助教
2009年 近畿大学医学部 内科学教室腫瘍内科部門 講師
2013年 大阪医科大学附属病院 臨床治験センター センター長
2013年 大阪医科大学附属病院 がんセンター 副センター長
2014年 大阪医科大学附属病院 臨床研究センター 診療准教授
- 趣味/特技 陸上競技(短距離100m)

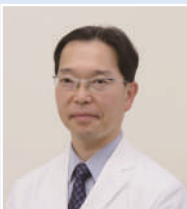


糖尿病代謝・
内分泌内科
科長 寺前 純吾
(てらさき じゅんご)
平成28年4月1日着任

糖尿病代謝・内分泌内科

糖尿病代謝・内分泌疾患は全身疾患であり、様々な症状や合併症を引き起こします。当科では新しい治療法の開発や導入などを積極的に進めながら、高度なチーム医療を実践しています。地域の先生方とも連携をとりながら、患者さまの立場にたった「トータルマネージケア」を目指して参りますので、ご紹介をお願いいたします。

- 専門分野 糖尿病代謝、内分泌疾患
- 資格 糖尿病専門医、内分泌代謝専門医・指導医
- 略歴 1990年 大阪医科大学 卒業、大阪医科大学 第一内科研修医
1992年 松下記念病院内科勤務
1993年 東京大学医学部研究生(第三内科 岡研究室)
1997年 巽病院内科勤務
1998年 大阪医科大学 内科学I 専攻医
2002年 大阪医科大学 内科学I 助教
2009年 大阪医科大学 内科学I 講師
- 趣味/特技 写真(草花、風景など)、電子工作(DIY Audio)



一般・消化器・
小児外科
科長 田中 慶太郎
(たなか けいたろう)
平成28年4月1日着任

一般・消化器・小児外科

一般・消化器・小児外科では新生児から高齢者までの消化器疾患に対する手術を中心に行っています。当科の特徴は確実な術前診断に基づく安全な外科治療の実践で、適応があれば腹腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に行います。“外科医療に責任を持つ”姿勢で皆様のニーズに応えられますよう努力いたします。

- 専門分野 大腸癌の診断と治療、大腸・肛門外科、低侵襲機能温存手術
- 資格 外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、大腸肛門病専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 略歴 1991年 大阪医科大学 卒業、大阪医科大学附属病院 一般・消化器外科研修医
1993年 南大阪病院 外科医員
1996年 大阪医科大学 一般・消化器外科専攻医
2000年 大阪医科大学 一般・消化器外科助手
2002年 フランス ストラスブール大学(IRCAD/EITS) 留学
2004年 大阪医科大学 一般・消化器外科 助手
2007年 大阪医科大学 一般・消化器外科 講師(准)
2013年 大阪医科大学 一般・消化器外科 講師
2015年 大阪医科大学 一般・消化器外科 准教授
マラソン、園芸、サッカー、ゴルフ、スキューバダイビング
- 趣味/特技



◎ 医療連携室からのお知らせ

■ 「紹介医療機関と大阪医科大学病院との連携強化のつどい」開催報告 — 歯科口腔外科 —

日頃、本院と連携いただいている地域の歯科クリニックさまを対象に、「連携強化のつどい」を4月16日(土) 本学看護学部講堂にて開催しました。

第2回目の開催となる今回は、歯科連携の現状報告、本院歯科口腔外科 植野科長と山口大学医学部歯科口腔外科学分野 真野 隆充講師による「当科における外科的矯正手術の再開について」、

寺井医長による「歯科における医療連携・口腔機能管理患者の逆紹介」の講演やアナライザーを使った公開アンケートを行い、盛況のうち無事に会を終えることができました。

お忙しい中ご出席いただきました皆様に、心からお礼申し上げます。



■ 「連携医療機関登録制度」登録募集



本院では地域の医療機関さまと相互に協力し、患者さまに良質な医療とサービスを提供することを目的として、「連携医療機関登録制度」を設けています。

平成28年4月30日現在で、124医療機関さま・518クリニックさま・210歯科クリニックさまのご登録をいただき、本院玄関前に連携医療機関さまの一覧を掲示しています。詳しい内容につきましては、ぜひ医療連携室にお問い合わせ、またはホームページをご確認ください。

大阪医科大学附属病院

検索

トップページ

→

医療機関さまへ

→

連携医療機関登録制度のご案内

編集後記

趣味とも言えるだろうか?ある時から献血が習慣になっている。休みに、また久しぶりに献血センターに向かった。受付順番待ちで、親子らしき2人組と一緒にになった。父は息子に手ほどきし、息子の不安な気持ちを和らげる。少年は父を信頼し、話に耳を傾けている。少しずつ社会にとけこむ、大人へのステップか。

私の父は他界しており、こうした導きをいま受け取ることができない。それに、もうそんな年齢でもない。ただ、今でもときどき父と会話をすることがある。

「父さんならどうする?」、と私から問いかける。

大きな決断の時だけではない、場面場面で、いや、ことあるごとに思いを馳せる。

今の自分と過去の父をだぶらせて、なにげない時が自然に生まれる。

そんなひとときが、愛おしい。

遠い将来、この少年も私と同じように父と語るのだろうか?

「父さんならどう思う?」と。(M.M)



医療連携室ご利用のご案内

■ 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日 / 8:30~20:00

土曜日 / 8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

■ 送信先 FAX.072-684-6339

■ 連絡先

大阪医科大学附属病院

広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表)内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)

● 本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話又はFAXにてご請求ください ●